



EVER-GLORY

竹パルプを活用して CO₂の削減に 貢献しよう。

わたしたちは、竹パルプの利用促進を通してCO₂削減に貢献していきます。

<http://www.ever-glory.jp>

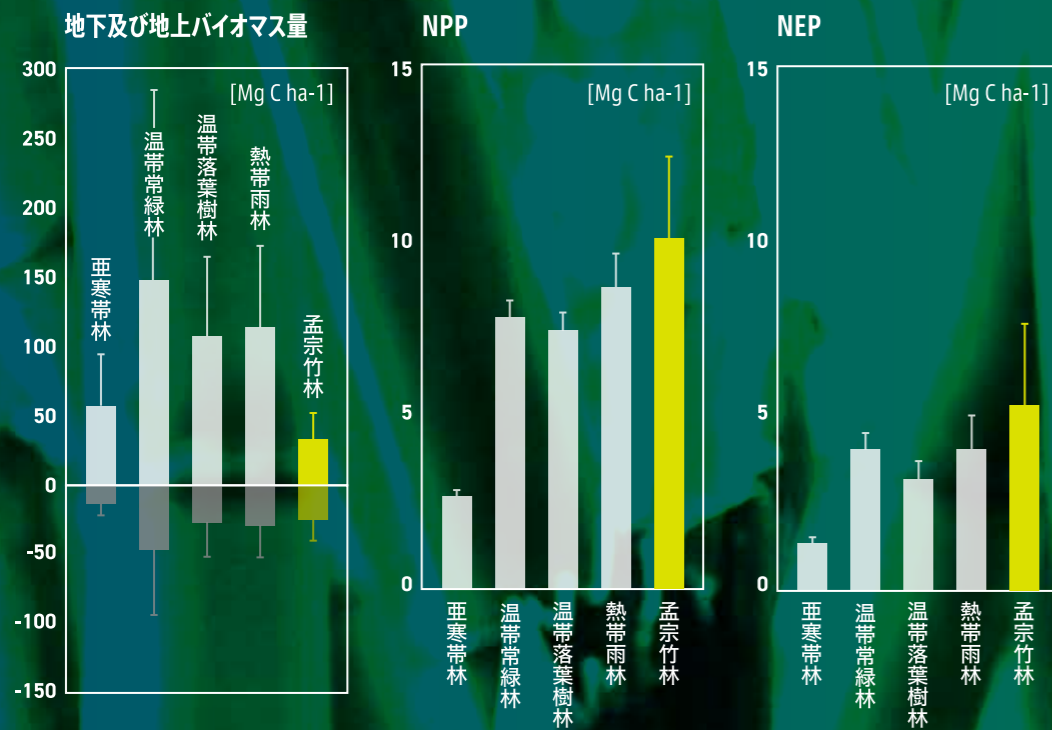
竹パルプの 環境優位性

適切に管理された**竹林**は、1ヘクタールあたり
年間約36トン*のCO₂を吸収します。

※NPP換算値。
※炭素とCO₂の換算：CO₂/C=3.67(二酸化炭素の分子量÷炭素の分子量=44÷12) 炭素1tにつき3.67tのCO₂と換算される。

孟宗竹林のバイオマス量は小さいにも関わらず、そのNPPとNEPは、全地球規模のデータセットにおける世界最高のNPPとNEPに相当しました。

データ提供：九州大学 久米朋宣教授



Mg C ha-1：1ha当たりの炭素固定量(トン)

NPP：一定期間内(通常1年間)における、総一次生産(光合成による炭素吸収量)から呼吸による炭素放出量を差し引いたもの。

NEP：NPPから微生物による落葉や枯死根、倒木などの分解(微生物呼吸ともいう)によって放出された二酸化炭素を差し引いた分。

竹林を3年サイクルで伐採。それを毎年チップ化、パルプ化することで、CO₂吸収量の高い水準を維持することができます。



竹の成長は3~5年で止まるため、以降はCO₂吸収量が減ってしまいます。また放置竹林は、本来のCO₂吸収力を発揮できません。3年目以上の竹を適切に伐採・利用することで、竹林の健全な育成とCO₂吸収量の最大化を実現しています。



放置竹林



竹パルプの利用が増えれば、
管理竹林が拡大し、更に**多くのCO₂を吸収**できます。

エバーグローリーの 取り組み

- 1 竹林のCO₂吸収量及びパルプ製造までのCO₂排出量(カーボンフットプリント)の見える化
- 2 竹パルプを利用した紙・紙製品の開発
- 3 竹ビジネス協業推進

